

平成 28 (2016)年 7月 9日

俳句会 於：三越

杉野一博 選

校内に自転車の列風光る

伊東次雄

六月やニセコ連山雲もなく

伊東次雄

実桜やワゴンに探すぞつき本

上澤孝二

荷を提げて鎖骨のうへの夏帽子

上澤孝二

手術前夜吾子ら集合アマリリス

木宮節子

無傷なる五体にメスや夏の月

木宮節子

十階の窓をふさいで花疲れ

滝田慶子

文月のマタイ伝読む異邦人

滝田慶子

畳まれたままの年月鯉幟

船矢美雪

出港の銅鑼早くなりゆく晩夏

船矢美雪

ヨサコイの湯気立つホーム電車くる

森山圭悦

夏の雨衛兵達は赤い服

森山圭悦

甲板の寝椅子満席星涼し

松原智津子

杉桶に地下水溜めて鱧つの字

松原智津子

夏草や減びし寺に桐の紋

山本俊郎

廃線の鉄路に続く落の臺

山本俊郎

西日果つ音の聞こえて羅針盤

杉野一博

郭公のあたり尖塔消えてゐる

杉野一博